



造形および表現領域における 材料研究と教材研究

人間科学部
子ども教育学科
講師

富永剛



研究シーズの紹介

造形および表現の授業の在り方や進め方を検証するため、2つのテーマを設けて研究しています。

A.【材料の特性を生かした造形活動】

現在の幼児教育における造形分野では、社会の変化とともに多様な材料が用いられています。自然素材から人工的のものまで、素材の持つ可能性を探究していくことが、これからの造形教育を深化させ、子どもの感性を豊かにしていくことに繋がると考えられます。

B.【子どもの豊かな感性を育むための子育て支援】

実践的な教材開発とその指導法研究の一環として、子育て講座「身近なもので遊ぼう!～ビニール風船遊び」を九州産業大学子育て支援室を利用する親子を対象に実施しました。



A

素材の可能性を広げる!

- “砂鉄と磁石”を使った作品「神奈備 - Magnetic Field」



B

子育て支援(地域連携)

- 身近にあるビニールの傘袋に着目し、それを素材とした造形物を親子で制作

A. 個展「富永 剛ー神奈備ー」(於:アーツスペース)



「神奈備 - Magnetic Field」

B. 子育て講座「身近なもので遊ぼう!～ビニール風船遊び」

「様々な素材や表現の仕方に親しむ」を講習のテーマとし、九州産業大学子育て支援室を利用する4組の親子を対象に子育て支援室を利用する親子を対象に体験型の講座を実施した。講座の前半では、幼稚園教育要領の改訂において、表現領域がどのような位置付けになっているのかを解説し、幼稚教育における造形の役割を理解してもらった。造形体験では、親子と一緒に造形遊びを楽しむことで、普段では見られない子どもの様子を伺うことができ、子どもの理解につなげることができた。

期待される活用シーン

A

- 多様な表現を見たい
- 素材の可能性を知りたい



幼児教育において素材の可能性を広げていくことは、子どもの感性を豊かにしていくことに繋がります。



B

- 子どもの造形活動の実践例を知りたい
- 子どものことを理解したい



今後も継続的に子育て講座を実施し、地域の子育て支援に貢献していきます。

